



京都学園大学同窓会滋賀県支部タイムス

滋賀県支部

発行責任者：馬場 善和

①第40回龍尾祭は10月24日(金)～26日(日)



京都学園大学キャンパスに一年間で一番活気がある龍尾祭がやってきます。同窓生の皆様も学生と一緒に母校の祭典をお楽しみ下さい。第40回目の記念すべき龍尾祭の4大イベントは音楽祭(中川翔子)、文化講演会(水谷修)、爆笑祭(NON STYLE、中山功太、藤崎マーケット)そしてファイナルを告げる花火大会。そうそう忘れてはならないのが同窓会が企画しているホームカミングデーと26日12時から光風館会議室で第36回同窓会総会がありますヨ。さて一番気になるのが26日の音楽祭、過去5年間、倅田来未、DA PUMP、ROAD OF MEJOR、D-51、昨年はMONKEY MAJIKと続々ビッグミュージシャンの龍尾祭。音楽祭では語り草になっているのが太田裕美が「木綿のハンカチーフ」でピーク

のとき、亀岡では考えられない多数の若者が旧体育館に開場前から長蛇の列ができた伝説の第8回(1976年)の音楽祭があります。京都学園大学生歌を作曲した宇崎竜童の「ダウン・タウン・ブギウギ・バンド」は唯一、1978年、1979年の2年連続、龍尾祭に出演。私は新聞部の取材として約20分間お話をできた。第13回(1981年)出演の水越けいこと、第15回(1983年)の研ナオコが印象に残っています。



私がいつも興味があるのが毎年変わる龍尾祭のテーマ、今年は学園祭に訪れる一人ひとりが、何か感じ取ってもらえるお祭りになりたい意気込みから「感祭人になろう」に決まりました。過去の龍尾祭で一番短いテーマは第13回(1981年)の「来」(であいい)、昨年は6E～Everyone! eatしてevent見て笑顔でenjoyすればええんちゃう!?～龍尾祭実行委員会の最初の仕事がテーマの選定。テーマが決まれば龍尾祭の方向性が自然と見えてきます。約50店舗の模擬店が出店され、学生が試行錯誤しながら作ったアイデア料理やクラブ伝統料理を楽しむことができます。(同窓会滋賀県支部の滋賀名産赤こんにやく入りおでんは今年も休業です。)フリーマーケットは最高80ブース(25・26日のみ)出展される。ファイナルを飾るのが26日午後7時からの花火大会、仕掛け花火も打ち上げられる予定。季節はずれの花火が龍尾山を背景に秋の夜空を彩り龍尾祭の最大イベントの一つになっている。交通アクセスは今年の4月12日からJR亀岡駅舎が新しくなりましたので可能な限り電車とバスで龍尾祭の同窓会受付テントへおこしやす!!

龍尾祭へおこしやす!!

②落語研究会の復活を望む!!

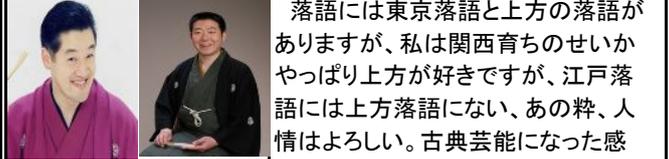
2000年以降活動停止中の落語研究会、なんと現在、6名のプロ噺家等を輩出した、名門「落研」の復活を期待したい。龍尾祭に学園寄席がないのはさびしい限りです。最近、落語家は人気がないのだろうか? 三風さん、京楽さんは後輩の指導は喜んで引き受けるので、学園大に落研が早期復活して欲しいと言っておられます。2年前に同窓会が主催した「学園寄席」も楽しいが、学生とのコラボがさらに楽しい。ここで落研出身の噺家等を紹介します。

芸名	本名	卒業年度	出身学部	師匠
桂 三風	竹田俊英	1984	経済学部	桂三枝
淀家萬月	久郷知己	1987	経済学部	桂三枝
桂ひろば	津村裕也	中退	経営学部	桂ざこば
笑福亭松五	坂本旭	2000	人間文化学部	笑福亭松枝



[桂三風] [淀家萬月] [桂ひろば] [笑福亭松五] [学園寄席] [東京]

芸名	本名	卒業年度	出身学部	師匠
三遊亭京楽	加藤孝之	1986	経済学部	三遊亭円楽
三遊亭鳳志	山本公一朗	1999	法学部	三遊亭鳳楽



落語には東京落語と上方の落語がありますが、私は関西育ちのせいかわつぱり上方が好きですが、江戸落語には上方落語にない、あの粋、人情はよろしい。古典芸能になった感のある落語です。私は6名のなかで、鳳志さん以外の落語及び大道芸を観賞しましたが、学園大卒業語家のパイオニア的存在である、三風さんの創作落語「3年1組同窓会」が特に面白いです。私案であります京町家キャンパスの和室と土間に50人席程、設営して卒業生による「学園寄席」を木戸銭を少し頂いて(落語研究会の復活費及び若手落語家の支援費)同窓会が主催できたなら落ち着いた雰囲気の中で懐かし大学の話話を少し入れて頂ければ楽しくなると思いますが・・・。そう言えば、桂べかこ(桂南光)さん等の米朝事務所所属の落語家のお話しと落研所属の学生の「学園寄席」をよく聞きました。最後に京都学園大学の落研が早期復活することを同窓会滋賀県支部を代表して願望します。(三風さんが草津市出身だから・・・)

同窓会滋賀県支部

【編集後記】

龍尾祭実行委員を経験した私は、毎年10月下旬か11月上旬の朝夕が肌寒くなる頃になると龍尾祭の事が気になります。卒業して26年も経過しているのに不思議です。第12回(1980年)の龍尾祭のテーマは「新たなるエネルギーの創造と魂の鼓動」でした、もう少しシンプルでも良かったと思います。音楽祭は桑江知子、誰がカバやねんロックロールショウ、チャクラの3組でした。当日、国道9号線がひどい渋滞で誰れカバは30分遅れ、チャクラの楽器及び機材が届かない状態での音楽祭で、コンサートの途中で休憩は入るし、何故か私が、ステージに上がって「国道9号線の渋滞でチャクラの機材が届かないのでチャクラの演奏は中止して本日の音楽祭はこれで終了します。」と顔から冷や汗を流しながら発声した事を覚えています。結局、当日券の入場料を芸能プロモーターに支払うことなく決着しましたが今思えば、契約不履行で全額を返金してもらったと後悔しています。とうとう滋賀県支部タイムスの発行が10号となりました。創刊号の平成17年12月以来約3年ですが、これからも同窓会の皆様の「つながり」に少しでも貢献できれば嬉しく思います。

